

令和3年度入学 編入学（社会人）試験問題の出典

社会福祉学部

種別	大問番号	著者名	著作物名	書名等	版元
小論文	—	藤井 理恵 藤井 美和	増補改訂版 たましいのケア 病 む人のかたわらに	いのちのこ とば社, 2009年より pp. 29-31	いのちのこ とば社

令和3年度 編入学（社会人）

## 社会福祉学部

### 小 論 文 (120分)

#### 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、2ページあります。なお、下書き用紙が2枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず黒鉛筆（シャープペンシルも可）で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 8 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 100 点)

人は病気になると、健康な時には当たり前のようにできていたことができなくなり、自分のしたいことを人にしてもらわなければならなくなります。それによって今まで完全に守られていたプライバシーすらも守られなくなります。このように患者さんは身体的に受け身となり、人にしてもらわなければ生活できない状態に置かれるので、人にしてもらうためには自分が自分らしくあることより、「患者らしくあろう」とさえします。

健康な時なら自分の気に入らない人や考え方に対して自由に反論し、対等に応じることができま。しかし、相手が医療スタッフで「ケアしてくれる人」、自分が患者として「ケアされている人」という状況のもとではそれもできなくなってしまいます。良いケアを受けるためには、患者らしくしておかなければならないと考えます。つまり患者さんは身体的に受け身であるばかりでなく、精神的受け身までも負わなければならなくなるのです。

また、私たちはときどき病む人に対し、「がんばってね」ということばを口にします。しかしこれも、すでに十分がんばっている病気の人に「まだあなたのがんばりは足りない」と思わせることばであり、精神的に追いつめ、受け身であることを感じさせることばです。

ある患者さんは「がんばれ」と励ます家族に対して怒りを爆発させ、「私がどれだけしんどいかわかるとわかるか!」と怒鳴ったことがありました。しかし相手が医療スタッフやお見舞いの方となると、「がんばれ」ということばも黙って受けなければしかたがありません。その意味でも精神的に受け身であると言えます。

ホスピスに入院した人のもとには、いろいろな方がお見舞いに来ます。それはその方の身を案じるという思いやりの気持ちからである一方、「今のうちに会っておかなければ自分が後で後悔する」という自分本位の気持ちからのこともあります。次から次へとお見舞いの方が来るのを見兼ねて、「断ることもできますよ」とお伝えしても、「いいえ、せっかく来てくださるのでですから……」と言われる。ここでも患者さんの受け身を感じさせられます。

ある 50 代の女性の患者さんで、いつもにこにこ感謝してケアを受け、だれからも好感を持たれる方がいました。しかしあるとき、その方は、「私だって感謝するよりは感謝される自分でありたいと思うよ」と言われました。患者さんは感謝する立場に置かれているというそのことだけで、すでに打ち砕かれた存在であることに気づかされました。その感謝のことばの上に平気であぐらをかいていないかと自らを省みるものでありたいと思います。工藤信夫著「援助の心理学」(聖文舎)に、「(援助者は)自分が助けなければならないという使命感に燃えて奔走することもあります。ところがこれは……人間にとって、最も基本的な喜び、すなわち、自分も人を助けることができるというその人の存在証明を奪ってしまうことになりかねない」とあるとおりです。

では、そういった受け身を感じさせない態度とはどんなものなのでしょうか。

姉は、「入院して寝たきりになり、自分で何もできなくなったとき、看護師さんが血圧を測りに来て、『つらいね』と言って泣いてくれた、この時ありのままの自分が受け入れられたと感じた」と言いました。自分が決して精神的にまで受け身でなく、他の人と同じだと感じることで

きるのは、相手が自分のレベルまで降りてきてくれる時だという話もありました。

私が注意しておきたいと考えている点は、病む人は身体的にも精神的にも受け身であるということです。そういった重荷を背負っていることを念頭に置いて訪問することが大切です。今のうちに行っておかなければなどという自分のニーズや義務感が優先され、これから訪問しようとする相手の状態などお構いなしというふるまいでは、患者さんはたまらないのです。

(藤井理恵・藤井美和『増補改訂版 たましいのケア 病む人のかたわらに』, いのちのことば社, 2009年, pp.29-31より, 一部改変)

問1 下線部「患者らしく」とはどのようなことか、本文の内容に即して 150 字以上 200 字以内で答えなさい。

問2 患者が自分らしくあるために、周囲の人はどのようにすればよいか、あなたの考えを 800 字以上 1000 字以内で答えなさい。